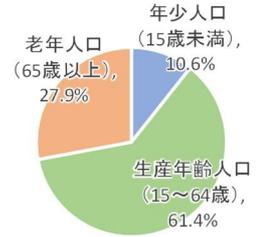


	世帯数	人口	年齢別人口	
現在	148 世帯	432 人	15 歳未満 (年少人口)	46 人
			15~64 歳 (生産年齢人口)	266 人
			65 歳以上 (老年人口)	121 人
約 50 年前	80 世帯	343 人		



**歴史等**

古代律令制では播磨国神前郡多駝里に含まれたと考えられます。福井谷遺跡に隣接する姥懐古墓からは、寺院の屋根の棟の両端にのせる鴟尾を棺に転用した鴟尾棺が見つかっており、福井谷で須恵器を作る工人集団の長の墓と考えられています。

中世は陰山荘に含まれたと考えられ、建武3年(1336)には赤松氏に仕えた後藤基明が春日山城を築いたとされます。春日山城は、天正6年(1578)の羽柴秀吉の播磨攻略で落城しましたが、姫路平野を見渡すことができる標高198mの山頂付近には城跡が残り、集落には春日山城にちなむ屋号なども残されています。

近世は豊臣氏の領地となった後、慶長5年(1600)からは姫路藩領となりました。寛延・慶長年間から昭和に至る検地帳や土地台帳などの古文書207点が残されており、寛延3年(1750)の鍛冶屋村明細帳によると、家数は41軒・人数214人でした。明治9年(1876)に八千種村の一部となりました。



熊野神社



拝殿の絵馬 (熊野神社)



秋祭り・屋台



かくしほちよじ



西邦寺



春日山城跡

※現在の人口・世帯数・年齢別人口は令和4年5月末時点、10年間の人口・世帯数の推移は各年5月末時点、約50年前の人口・世帯数は昭和52年6月末時点であり、いずれも住民基本台帳による値です。なお、年齢別人口のみ外国人を含む値になっています。

## 歴史文化遺産一覧

分類	名称		年代	概要	歴史文化ものがたり					
					①	②	③	④	⑤	⑥
建造物 石造物	1	地藏菩薩立像(地藏堂)	明治9年 (1876)	地藏菩薩の石仏。正面に造立年・像容とともに「未年 男」と記されている。				●		
	2	地藏菩薩立像(地藏堂)	室町時代か	三体地藏石仏で全体が真っ黒になっているが、中央の像は右手に錫杖、左手に宝珠を持ち、左の像は胸の前で両手を合掌し、右の像は不明である。大正8年(1919)の道路工事の際に出土したものであることから堀上げ地藏と呼ばれている。				●		
	3	三界万壺塔(西邦寺)	天明年間 (1781~1789)	家形石棺蓋石。正面には造立年とともに「三界万壺」の文字が記されていると思われるが、判読できない文字が多い。				●		
	4	石鳥居(熊野神社)	文政10年 (1827)	石鳥居。正面に「文政十年丁亥四月吉日」と記された残欠(本殿東に石柱あり)。昭和62年4月に修復。				●		
	5	石灯籠(熊野神社)	明治19年 (1886)	左右一対の石灯籠。左右ともに正面に「献灯」、側面には願主等、背面に造立年月が記されている。				●		
	6	石灯籠(熊野神社)	明治42年 (1909)	左右一対の石灯籠。左右ともに正面に「献灯」、各側面にそれぞれ造立年月と世話人が記されている。				●		
	7	石灯籠(熊野神社)	大正9年 (1920)	左右一対の石灯籠。左右ともに正面に「献灯」、各側面にそれぞれ造立年月と願主が記され、左灯籠の基礎の左に周施人が記されている。				●		
	8	手水石(熊野神社)	文政13年 (1830)	手水石。正面に「盥」、右に造立年月、左に願主が記されている。				●		
	9	狛犬(熊野神社)	明治9年 (1876)	左右一対の石造狛犬。				●		
	10	無縫塔(西邦寺)	元禄6年 (1693)	正面には「前住西邦瑞泉現堂主之塔」の文字とともに造立年月日が記されている。				●		
	11	無縫塔(西邦寺)	元禄13年 (1700)	無縫塔。正面には「前住西邦泰瑞堂主之塔」の文字とともに造立年月日が記されている。				●		
	12	石祠(鹿島神社)	嘉永7年 (1854)	熊野神社の境内社鹿島神社の石祠。左に「願主村中 嘉永七寅四月八日 改建 発起主柳蔵 世話人 杏兵衛 甚兵衛」と記されている。				●		

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りと信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

鍛冶屋

分類	名称	年代	概要	歴史文化ものがたり						
				①	②	③	④	⑤	⑥	
建造物 石造物	13	石棺蓋石（西邦寺）	不明	家形石棺の蓋石。かつて八千種鍛冶屋で用水路の橋に転用されていた石棺蓋で、現在は西邦寺に所在。縄掛突起をもつ古式の石棺の事例であるが、縄掛突起の形式化の進んだものであり、そのなかでは新しい時期のものと考えられる。				●	●	
	14	道標（鍛冶屋路傍）	不明	道標。正面には地藏坐像の像容とともに「右 志んざい 左 てんの ひめ志」と記されている。				●	●	
	15	道標（鍛冶屋路傍）	不明	道標。正面には地藏坐像の像容とともに「右 溝口駅」と記されている。				●	●	
	16	道標（西邦寺西移設）	不明	法華道の道標。西邦寺に移設されているもの。正面には地藏坐像の像容とともに「右 ひめじ 御ちやく 左 法花山 加古川」と記されている。				●	●	
	17	道標（西邦寺西移設）	不明	道標。正面には「北 つじかわ」、右には「東 ほうじよう」と記されており、左と背面は判読できない。					●	
	18	道標（西邦寺西移設）	不明	道標。角柱型。正面には「願開」の文字とともに「右 やまみち 左 みたち こうろ」と記されている。				●	●	
	19	百度石（熊野神社）	昭和8年 (1933)	百度石。				●		
	20	墓碑（鍛冶屋墓地）	元禄5年 (1692)	墓碑。正面には造立年月日とともに「同会 天室外信士□翁□心信士 秋山妙林信女長□妙寿信女」の文字が記されている。				●		
	21	石灯笼（愛宕神社）	安政7年 (1860) 享保12年 (1727)	左右一対の石灯笼。「講中 愛宕大権現」と記されている。				●		
美術工芸品 絵画	22	騎馬武者絵図（熊野神社）	文久2年 (1862)	奉納者は「当郵氏子」とある。60.5×70.5 cm。	●			●		
	23	武者絵図（熊野神社）	元治元年 (1864)	奉納者は「当所氏子」とある。53.5×39 cm。	●			●		
	24	武者絵図（熊野神社）	明治2年 (1869)	奉納者は「子男」とある。34×49 cm。	●			●		
	25	萩の乱図（熊野神社）	明治10年 (1877)	画家は「露琴」とあり、奉納者は3名。68.5×93.5 cm。	●			●		
	26	武者絵図（熊野神社）	明治10年 (1877)	奉納者は3名、63×93 cm。	●			●		

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りと信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

分類	名称	年代	概要	歴史文化ものがたり						
				①	②	③	④	⑤	⑥	
美術工芸品 絵画	27	武者絵図（熊野神社）	明治25年（1892）	奉納者は3名。82×122.5cm。	●			●		
	28	騎馬武者絵図（熊野神社）	明治27年（1894）	奉納者は2名。33×44cm。	●			●		
	29	男拝み絵図（熊野神社）	明治31年（1898）	奉納者は「願主午歳男」とある。社前繁馬。71×95cm。	●			●		
	30	日露戦争図（熊野神社）	明治40年（1907）	奉納者は3名。61×91cm。	●			●		
	31	題材不明図（熊野神社）	明治時代	奉納年月日は「明治□」とあるが詳細は不明。奉納者は不明。剥落している。75.5×107cm。	●			●		
	32	猿と柿図（熊野神社）	大正8年（1919）	奉納者は「36歳の男」とある。45.5×36.5cm。	●			●		
	33	尉と姥図（熊野神社）	大正11年（1922）	奉納者は不明。世話（発起）人は3名。73×56cm。	●			●		
	34	神功皇后と武内宿禰図（熊野神社）	大正14年（1924）	奉納者は不明。世話（発起）人は3名。45×61.5cm。	●			●		
	35	武者絵図（熊野神社）	大正14年（1924）	奉納者は不明。世話（発起）人は周旋人青年団。61.5×101.5cm。	●			●		
	36	武者絵図（熊野神社）	不明	奉納者は「太尾邑源四郎」とある。71×89cm。	●			●		
	37	騎馬武者絵図（熊野神社）	不明	画家は「探索齊雪鳳」とあり、奉納者は8名の名がある。83×104cm。	●			●		
	38	社寺参詣図（熊野神社）	不明	奉納者は「当所 中塚惣三郎」とある。54.5×40.5cm。	●			●		
	39	武者絵図（熊野神社）	不明	奉納者は不明。38×54cm。	●			●		
	40	神功皇后と武内宿禰図（熊野神社）	不明	奉納者は不明。54×38cm。	●			●		
	41	飾馬図（熊野神社）	不明	奉納者は不明。35.5×51.5cm。	●			●		
	42	飾馬図（熊野神社）	不明	奉納者は「巳年女」とある。47×32cm。	●			●		
	43	米俵運搬図（熊野神社）	不明	奉納者は「白井□」とある。31×42cm。	●			●		
	44	題材不明図（熊野神社）	不明	奉納年月日・奉納者ともに不明。破損している。押絵。48×79cm。	●			●		
45	春日山城主後藤伊勢守元信名刀写真額（熊野神社）	昭和56年（1981）	奉納者は「中塚廣重」とある。協力者3名。刀一振。	●			●			
46	武者絵図（熊野神社）	元治元年（1864）	奉納者は不明。	●			●			

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りと信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

# 鍛冶屋

分類	名称	年代	概要	歴史文化ものがたり						
				①	②	③	④	⑤	⑥	
美術工芸品	書跡・典籍・古文書・歴史資料	47	鍛冶屋区有文書	寛延・慶長～昭和	寛延・慶長年間から昭和に至る検地帳や土地台帳などの古文書。207点					
有形の民俗文化財	祭具	48	屋台（鍛冶屋区）	—	布団屋根型屋台。前後に大正末期から昭和初期に作られた伝統あるエビの梵天、左右に飛龍の梵天を飾り付けている。屋根は、町内で鍛冶屋だけの、青地に富士の染め抜きで、伊達綱は、白地に金の二色綱という特徴がある。					
		49	力石	不明	1個。53×37×27cm。切付無し。過去には2個あったとされるが、小さい方のみが残っていたが、現在はそれも所在不明となっている。					
無形の民俗文化財	年中行事・民俗芸能	50	秋祭り（八千種）	—	八千種地区の余田・庄・鍛冶屋・小倉の屋台4台（いずれも布団屋根型）・神輿1台が大歳神社に集まる（近年は担ぎ手不足のため小倉屋台は不参加）。本宮では、屋台が宮入りし、境内での屋台練りの後、浄舞が舞われて神輿渡御が行われる。神輿に続いて屋台も宮出を行い、神社前の池畔の御旅所前で神事後、再度浄舞が舞われる。神輿の還御が行われ、再び屋台が宮入りし、境内で練り合せを行い、各地区代表による手締めの後、宮出となる。					
		51	かくしほちよじ	—	毎年1月成人の日の前日の夕刻から翌日の早朝にかけて鍛冶屋地区の全戸が参加して行われる。「ほちよじづくり」「案内廻り」「酒宴と夕食」「ほちよじかくし」「諸神事」「狐追い」「ほちよじ焼き」等の諸行事が古式の行事が形態をあまり変えずに継承されている。 <b>【県指定無形民俗文化財】</b>					
		52	才の堂	—	1月14日に公民館で行われる。					
		53	お般若	—	7月9日に西邦寺で行われる。					
		54	虫送り（施餓鬼）	—	8月24日に西邦寺で行われる。					

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りと信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

分類	名称	年代	概要	歴史文化ものがたり							
				①	②	③	④	⑤	⑥		
無形の民俗文化財	年中行事・民俗芸能	55	七夕祭	—	鍛冶屋区では各戸において七夕祭を実施していた。				●		
		56	盆祭り	—	8月6日に公民館で行われる。				●		
		57	地藏盆	—	8月23日に地藏尊で行われる。				●		
		58	彼岸会（秋）	—	8月20日に西邦寺で行われる。				●		
遺跡	古墳・その他の墓	59	姥懐古墓	—	寺院の屋根の棟の両端に乗せる鴟尾を棺に転用した鴟尾棺（京都大学総合博物館蔵）が発見されている。隣接する福井谷遺跡には、須恵器を作る窯跡があり、同系統の鴟尾も出土している。この古墓は、福井谷で須恵器を作る工人集団の長の墓と考えられる。		●				
		60	鍛冶屋裏垣内遺跡	中世	中世の集落跡。		●				
	散布地・集落跡・生産遺跡等	61	鍛冶屋遺跡	古代～中世	市川支流の平田川東岸の段丘面に広がる遺跡で、古代から中世にかけての遺物が採集されている。炭・焼土も認められ、生活の痕跡がうかがわれる遺跡である。		●				
		62	大谷上池遺跡	中世	中世の遺物の散布地。		●				
		63	大谷下池遺跡	中世	中世の遺物の散布地。		●				
		64	玉屋遺跡	弥生時代中期	弥生時代中期の方形周溝墓、土坑が検出されている。		●				
城館跡・神社跡	65	春日山城跡	中世	中世の城跡。建武年間（1334～1336）の築城とされ、後藤基明が初代城主と伝える。天正6年（1578）、羽柴秀吉の播磨攻略で落城。春日山の山頂には、曲輪、食糧貯蔵庫跡などの遺構が残る。						●	
名勝地	山岳	66	春日山	—	播州後藤氏の居城と言われている春日山城の城跡が残る。標高198mの山頂からは、姫路平野を見渡すことができる。登山道が整備されている。		●				
動物・植物・地質鉱物	植物	67	春日山のヤマモモ	—	春日山山中に位置する。樹高10m、目通り幹周り220cm。 【町指定保存樹】		●				

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りと信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

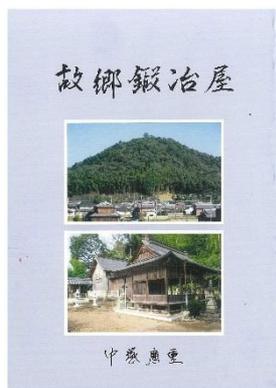
## 鍛冶屋

分類	名称	年代	概要	歴史文化ものがたり						
				①	②	③	④	⑤	⑥	
その他	信仰の場	68	熊野神社	—	熊野大神を祭神とする鍛冶屋区の氏神。春日山城主・播州後藤氏とのゆかりも深く、拝殿には後藤家に伝わる脇差の写真が展示されている。					
		69	西邦寺	—	春日山の麓にある黄檗宗の寺で、春日山城 9 代目城主・後藤伊勢守（基信）の菩提所である。かつて 7 月の田植え後に豊年祈願の祈祷が行われ、虫除けの札を出して村の端に立てていた。この祈祷は西邦寺の檀徒が参加し、農家の水口祭や田祭りに相当するものを仏教が取り入れたものと考えられる。					
		70	春日山観音堂	昭和 46 年 (1971)	常住寺住職が霊夢により観音像を祀ったとされる。昭和 46 年 (1971)、毎朝の山上での読経の折に、材料を少しずつ担ぎ上げ完成させた堂であり、観音像を祀り、戦に倒れた将兵の冥福を祈り続けている。					
	民間説話・地名・伝承地・屋号等	71	屋号 (春日山城下)	—	春日山城の厩に因むといわれる「馬場先」、主屋の意の「オモテ」、地藏の前の家が「堂の前」などの屋号が残る。					

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りと信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

## 歴史文化遺産の保存・活用の取組等

- ・鍛冶屋祭り保存会を組織し、八千種村に伝わる太鼓の演奏、伊勢音頭の伝承・技術などを継承しています。
- ・令和4年(2022)1月に中塚氏により地域史誌『故郷鍛冶屋』が編さんされました。
- ・春日山を考える会(庄・鍛冶屋)により、春日山の活用方策の検討などの取組が進められています。



『故郷鍛冶屋』の編さん



春日山城跡の解説板